

吉田幸一編

異國物語

古典文庫

吉田幸一編

異國物語

古典文庫

平成七年十一月二十日印刷発行 非売品

異国物語

編者 吉田 幸一

発行者 吉田 幸一

印刷者 白橋印刷所

製本者 共伸舎

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話 〇三(三九一〇)二七一一七
振替口座東京〇〇一九〇九一四五九七番

目次

はじめに.....	三
-----------	---

異国物語　パリ本〔翻刻〕.....	九
-------------------	---

―万治版図譜と出典『三才図会』図譜・図解併出―

解説

(一)　パリ本書誌.....	三七
----------------	----

(二)　異国物語の成立年代.....	三二
--------------------	----

(三)　異国物語の出典について.....	三六
----------------------	----

(イ)　異国図譜の固有名詞表記の検証.....	四三
-------------------------	----

(ロ)　『和漢三才図会』図譜の固有名詞音訓表.....	五七
-----------------------------	----

おことわり.....	三〇二
------------	-----

はじめに

パリ、フランス国立図書館に『唐物語』と題する奈良絵本がある（パリ本と称する）。ところで、『唐物語』といえは、戦前までは、鎌倉時代の中国翻訳説話集として知られてきた作品だったが、戦後私はふとしたことから、それは前田綱紀公の手記『桑華書誌』の「古蹟歌書目録」第十六雑の条に見える「漢物語一帖 成範作」とある記録に目がとまって、藤原成範の伝記（通憲（信西入道）の子。平安末期の公卿。保延元—文政三。二二—二七）に成立期を求め、上限は永万元年（二五）七月、成範31歳以降の十一年間の内の作であろうと推定した。詳細は「平安文学研究」誌第20・21輯（昭和32・9、33・6）に「唐物語は平安時代の作品なり 上・下」

（安田孝子氏編『異本唐物語』 古典文庫 560（平成5年7刊）に「唐物語」の成立年代考」と題して再録し、「追考」を付けた拙稿をご参照を請う。）

さて、パリ本の奈良絵本は、上中下三帖から成り、題簽には「唐物語 上」「から物語 中」「唐もの語 下」とあるが、内題には「異国物語」とあるばかりか、序文の文末にも「すなはち異国物かたりと名つくるのミ」と結んでいるから、これが原題で、奈良絵本の筆者が、本文内容が、先の『唐物語』とは全く異なるのに、同名の先蹤作品の存在をも知らずに、かく題したのであって、おそらくは、奈良絵本に仕立てた際の誤りだったと思われる。

それにもかかわらず、本作には絵入『異国物語』万治元年板もあつ

て、朝倉治彦氏編『仮名草子集』第四卷（昭和58・11 東京堂出版）に影印で収められているから、周知の作品と思うが、まだ翻刻されていない。

念のために本文について、パリ本と比較すると、漢字と仮名表記の相違の他に、若干の異同はあるが、ほぼ同文の説話といってよく、パリ本の書写年代と万治元年版と、いずれが先であるか。また、この作品の成立年代はいつ頃かなどは、これからの問題であるが、まず本作については、岩波書店『日本古典文学大辞典』（一九八三年刊）に、関場 武氏による、示唆に富んだ解説があるから、左記しておく。

異国物語 三卷三冊。仮名草子。作者未詳。万治元年（一六五）

野田庄右衛門刊。〔内容〕『三才図会』のうち、「人物十二卷—十

四卷」の一七五図から抄出、和訳して、諸国風俗を俗耳に入りやすくした啓蒙書。实在の国々だけではなく、一目国、一臂国などまでも『三才図会』を踏襲している。

ただし、同書に忠実に依拠するのではなく、掲載順序が異なるほか、絵図・文章ともやや手を加え、ことに大日本国・高麗国などは別図を挿入している。計一三八の各国人物図のうち、冒頭の「大日本国」は一頁大の図であるが、次の「高麗国」以下の国々は上段に一、二図ずつのせ、脇や下方に説明文を記している。本書の刊行には安土桃山期よりの「世界図屏風」、正保二年（二六五）の各国人物につき「万国総図」の刊行による刺戟を考慮に入れる必要があるうし、『三才図会』から『訓蒙図彙』、『和漢三才図会』

への流れの中での位置づけも重要であろう。【諸本】万治版のほかに刊年不明の菊屋版がある。

なお、それ以前の昭和54・3（一九七九）「東横国文学」第11号に、坂巻甲太氏の「異国物語」「三国物語」——未刊仮名草子解題稿(1)——

という論稿もあって、万治版の書誌的記述やそれを巡って書林についても詳細を極め、さらに内容についてもよく特質を捉えて記述されているので、多くの学恩を蒙ることができた。ここに両氏に対して深謝申し上げる。

異国物語 (翻刻)

— 万治元年版図譜と出典『三才図会』図譜とを併出 —

凡 例

一、本書は、フランス国立図書館蔵、奈良絵本『唐物語』（異国物語）三帖を底本として翻刻し、併せて万治版「異国物語」を校合して、異同を示した。

(イ) 漢字・仮名の別、漢字の異体・略体文字の表記は、できる限り原文に忠実にと心掛けたが、固有名詞には次のような例外もある。例えば（上が本書―下が通常の文字）

勾奴―匈奴

點伽臘―默加臘

は、下の通行文字に改めた。その他、不審と思われるものには（ママ）印を付けて、もとのままとし、片仮名表記も底本のままとした。

(ロ) 翻刻文には、解読の都合上、句読点を施した。清濁の区別は原文のままとした。

(ハ) 各異国名の見出しには、順番号を付けた。

各異国には、必ずその風土、風俗その他の有様を画いた図譜が一枚づつ加

えられているが、順番号は、それ（図譜の順序）にも該当する。但し、パリ本には、3「大琉球国」の挿絵と見出しを欠く。

(二) パリ本と万治版との校異は、右傍にイ印（万治版の本文）を付けた。

例一、1北京の「都」^{城イ}は、万治版には「北京の城」とあることを示す。

例二、「一年に^{してイ}いたる」は、万治版には「一年にしていたる」とあることを示す。「。」印は補入記号ではない。

例三、底本の右傍に「・」印を付けた文字は、万治版にはその文字のないことを示す。

58 穴に持・帰り―万治版「穴に帰り」

66 先地をほりて―万治版「先地をほりて」

(ホ) 万治版に施された振仮名は、校異から除外した。

(ヘ) 万治版には、本文の漢字に振仮名があるが、パリ本にはない。本文はパリ本のままとした。

二、本文はカラー版をご覧のように、毎頁一国または二国ずつの図譜を伴ってい

る。それ故、翻刻文（略解）を図譜なしで掲げることとはた易いが、一々カラー版と対照して見るのが面倒と思い、また、奈良絵本の図譜をモノクロで示すのめいかかと、幸いに万治版の素描画が、奈良絵の図譜と等しい場面であるので、それを順に掲出した。

次に、本書の図譜と略解とは、すべて中国明の王圻『三才図会』を出典としていることから、同書の図譜も併せ掲げた。そのために、奈良絵本パリの本の中・下巻の区切を付けなかったが、図譜番号で示すと、次の通りである。

上巻	—	「高麗国」	46	「火州」	（ 国名ノ記 載ナシ ）
中巻	47	「交趾国」	88	「昆吾国」	
下巻	89	「默伽国」	137	「浮泥国」	

春もやうくくれゆき、五月雨の比になりぬ。雨中つれくくなるに、友とする人きたり。世中のよしなき事共、うらなくかたるこそおかしけれ。おなし人間に貴賤賢愚有。又すかた言葉もさまくあり、とかたる。ある人云、姿言葉のちかひしことハもろこし成へしと云、何の国には人のかたちかく有なとかたりけるに、かたはらいたくおもしろし。いかてかの国の風俗しれるや。いつはりならんと云。井のうちははつなるへし。

三才図^(ママ)絵にくわしくありと云。これを見るに、初心の人、めやすからすみるにせんなし。あさきよりふかきに入なれハ、他のあさけりもあらんなれと、仮名になをし、つれくなくきみとせしなり。およそ一百四十余ヶ国有。めつらしくちかひしことなりといふ。爰によそへ、すなはち異国物かたりと名つくるのミ。

異国物語 上

日本国、則和国なり。新羅国の東南大海のうちに有、山嶋によつてすみかとす。この国、九百余里、もつはら武勇をこのミ、中国にしたかわす、国をおかし、うはハんとす。此ゆへに、中国是をおそれて、常に倭^(ママ)影^(マ)（寇）と名つく。又は神国といひ、天神七代、地神五代より、人王の今にいたり、まつり事たゞしく、儒釈道、詩哥管絃、文武医薬、その道をまなひ、上下万民、まことをさきとし、国の制度明なり。しかあれば、四海をたやかに、諸国にすぐれたり。是により、万国日本にしたかわすといふことなし。

「大日本国」^(三オ) 半丁 「挿絵」^(三ウ) 半丁